

2017年8月15～16日 ② 16日10:00現在

終戦72年

「今の平和に感謝」 千鳥ヶ淵墓苑、遺族ら合掌

日経新聞 2017/8/15 12:17

終戦の日の15日、身元の分からない「無名戦士」や民間人の遺骨を納める千鳥ヶ淵戦没者墓苑（東京・千代田）では、朝から多くの遺族らが訪れ、手を合わせた。

千葉県松戸市の男子大学生（21）は3年連続で訪れた。2013年10月に当時のケリー米国防務長官が墓苑を訪れたことで「こんな場所があるのか」と知った。曾祖父はフィリピン・レイテ島で戦死。長崎出身の祖母が8月9日に黙とうする姿にも影響を受けた。「せめて終戦の日は先人に畏敬の念をもち、今ある平和に感謝したい」と話した。

会社役員の男性（70）は妻と2人で訪れた。出征した父親は激戦地のラバウル（現パプアニューギニア）に送られたが、九死に一生を得て帰還した。「戦い、亡くなった人々を思うと手を合わさないではいけない」。一方で「墓苑を訪れる人が年々少なくなっている気がする。残念だ」とさみしそうに話した。

首相 千鳥ヶ淵の戦没者墓苑で慰霊

NHK8月15日 11時48分



安倍総理大臣は「終戦の日」の15日、政府主催の「全国戦没者追悼式」に出席するのに先立って、東京・千鳥ヶ淵の戦没者墓苑を訪れ、花束をささげて戦没者の霊をなぐさめました。

千鳥ヶ淵の戦没者墓苑には、第2次世界大戦で戦死し、名前がわからないため、遺族に引き渡すことのできない遺骨が納められています。

安倍総理大臣は「終戦の日」の15日、政府主催の「全国戦没者追悼式」に出席するのに先立って、午前11時半前、戦没者墓苑を訪れました。

そして、安倍総理大臣は花束をささげて、深々と頭を下げ、戦没者の霊をなぐさめました。

東京都戦没者追悼式に700人余参列 小池知事が式辞

NHK8月15日 17時53分

東京・文京区では先の大戦で亡くなった人たちを慰霊する東京都戦没者追悼式が開かれました。

この追悼式は東京都と東京都遺族連合会が毎年、終戦の日

に行っているもので、会場には戦没者の遺族ら700人余りが参列しました。



式では東京都の小池知事が「戦没されたかたがたの祖国への思いを改めて深く心に刻み、世界平和の実現と人類繁栄への貢献に積極的に取り組んでまいります」と式辞を述べました。そして正午の時報に合わせて参列者全員でおよそ1分間の黙とうをささげ、戦没者の霊を慰めました。

このあと東京都遺族連合会の会長で戦争で父親を亡くした宇田川剣雄さん（75）が「我々のような遺族を出してはならないという決意を新たに、戦争の史実と教訓を若い世代に確実に伝えることを固く誓います」と述べ、式壇に白い花を供えました。

参列した72歳の女性は「戦争で亡くなった父の顔は写真でしか知らず、母が苦勞して私たちを育ててくれました。何の憂いもない世の中になってほしいと思います」と話していました。

終戦から72年 東京大空襲の犠牲者を追悼

NHK8月15日 12時02分



終戦から72年の15日、東京都内でもおよそ10万人が亡くなった東京大空襲の犠牲者に対して、遺族などが祈りをささげました。

東京・墨田区にある「東京都慰霊堂」には、昭和20年3月10日にあった東京大空襲などの犠牲者の遺骨が納められていて、終戦の日の15日は朝から遺族などが訪れて祈りをささげています。

この慰霊堂に納められた空襲の犠牲者の遺骨は10万5000人に上りますが、このうち身元がわかっているのは3700人分にとどまるということです。

空襲で父親と姉を亡くしたという墨田区の82歳の男性は「私は疎開して助かりましたが、東京は焼け野原で悲惨な状況でした。2人の遺体は見つかっていませんが、安らかに眠ってほしいと手を合わせました」と話していました。

また、家族で訪れていた千葉県市川市の26歳の男性は「祖父を空襲で亡くしていて、毎年、手を合わせに来ています。私たち若い世代も終戦の日を重く受け止めて、戦争を忘れないようにしたいです」と話していました。

不戦と平和、誓い新たに＝72年の歩み、首相「不動の方針」－東京で戦没者追悼式



全国戦没者追悼式で黙とうされる天皇、皇后両陛下＝15日午後、東京都千代田区の日本武道館

72回目の終戦記念日を迎えた15日、政府主催の全国戦没者追悼式が東京都千代田区の日本武道館で開かれた。天皇、皇后両陛下や安倍晋三首相、遺族ら約6400人が参列。全員で黙とうして戦没者の冥福を祈り、不戦と平和への誓いを新たにされた。安倍首相は戦後72年の不戦と平和国家としての歩みを「不動の方針」とし、天皇陛下はお言葉で、一昨年と昨年に続き「深い反省」に言及された。

式典は正午前に始まった。安倍首相は式辞で「私たちが享受している平和と繁栄は、尊い犠牲の上に築かれた」と述べ、日中戦争と太平洋戦争で犠牲になった約310万人を追悼した。

その上で「戦争の惨禍を二度と繰り返してはならない」と強調。「戦後一貫して戦争を憎み、平和を重んずる国として歩み、世界の平和と繁栄に力を尽くしてきた。歴史と謙虚に向き合い、どのような時代でもこの不動の方針を貫く」と宣言した。歴代首相が踏襲してきたアジア諸国への「損害と苦痛」「深い反省」には今年も触れなかった。



全国戦没者追悼式で、黙とうする参列者＝15日午後、東京都千代田区の日本武道館

正午から1分間、黙とう。続いて、天皇陛下が「過去を顧み、深い反省とともに、今後、戦争の惨禍が再び繰り返されないことを切に願う」とお言葉を述べた。

その後、父がビスマルク諸島ラバウルで戦病死した福岡県豊前市の渡辺一さん（83）が遺族を代表し「先の大戦から学んだ戦争の悲惨さと平和の尊さを次の世代にしっかりと伝え、二度と戦争をしない日本と国際社会の建設に向かってまい進する」と追悼の辞を述べた。

厚生労働省によると、参列した遺族は4998人。最高齢は夫を沖縄戦で失った東京都練馬区の芹ヶ野春海さん（101）。最年少は曾祖父を亡くした沖縄県うるま市の宮城翔竜君（6）。参列者に戦没者の父母は7年連続でおらず、妻は最少となった。戦後生まれが年々増え、世代交代が進む。（時事通信 2017/08/15-13:02）

終戦72年、平和誓う 追悼式、首相今年も加害触れず

共同通信 2017/8/15 12:47/15 13:59updated



東京・日本武道館で開かれた全国戦没者追悼式。壇上は黙とうされる天皇、皇后両陛下＝15日正午すぎ

終戦から72年を迎えた15日、政府主催の全国戦没者追悼式が東京の日本武道館で開かれ、参列者は犠牲者を悼み、平和への誓いを新たにされた。安全保障関連法の運用が既に本格化。憲法改正も現実味を帯び「不戦」堅持が揺らぐ中、安倍晋三首相は「戦争の惨禍を繰り返してはならない」と強調したものの、アジア諸国への加害責任には今年も言及しなかった。天皇陛下は、3年連続で「深い反省」との文言が入ったお言葉を読み上げられた。

北朝鮮情勢が緊迫する中、安倍首相は「わが国は戦争を憎み、平和を重んずる国として歩んできた」とし、「歴史と謙虚に向き合い、この不動の方針を貫く」と明言した。

終戦の日 不戦の誓い、次代に

毎日新聞 2017年8月15日 20時47分(最終更新 8月15日 23時37分)



全国戦没者追悼式で、おことばを述べられる天皇陛下と皇后さま＝日本武道館で2017年8月15日午後0時3分、

渡部直樹撮影

終戦から72年となる15日、政府主催の全国戦没者追悼式が開かれ、遺族や安倍晋三首相ら6167人が参列した。会場の東京都千代田区の日本武道館には100人を超える18歳未満の遺族も集い、不戦の誓いを引き継ぐ決意を新たにした。天皇陛下は大戦について、戦後70年の2015年から3年続けて「深い反省」との表現を使い、平和を祈る気持ちを示された。陛下の退位を実現する特例法が6月に成立してから初めての追悼式。

追悼される戦没者は、日中戦争と第二次世界大戦で犠牲となった約310万人。式典には全国から戦没者の妻や子ども、ひ孫ら遺族4998人が参列した。うち18歳未満は105人。若い世代に戦争の記憶を引き継ぐため、18歳未満の遺族6人が青少年代表として献花し、壇上へ向かう献花者に菊の花を手渡す役目も18歳未満の遺族14人が務めた。

陛下はおことばで「かけがえのない命を失った数多くの人々とその遺族を思い、深い悲しみを新たにいたします」と述べ、「深い反省とともに、今後、戦争の惨禍が再び繰り返されないことを切に願い、全国民と共に、戦陣に散り戦禍に倒れた人々に対して、心から追悼の意を表し、世界の平和と我が国の一層の発展を祈ります」と語った。

安倍首相は式辞で「戦争の惨禍を二度と繰り返してはならない」と決意を語ったが、歴代首相が述べてきたアジア諸国への加害責任や謝罪について5年連続で言及しなかった。「不戦の誓い」の文言も今年も使わず、「争いの温床ともなる貧困の問題をはじめさまざまな課題に取り組み、世界の平和と繁栄に貢献したい」と述べた。【桐野耕一】

終戦の日 惨禍、伝える使命…追悼式参列、戦後生まれ最多

毎日新聞 2017年8月15日 12時12分(最終更新 8月15日 15時30分)



戦没者を悼み、手を合わせる女性＝東京都千代田区の千鳥ヶ淵戦没者墓苑で2017年8月15日午前9時20分、宮武祐希撮影

終戦から72年となる15日、政府主催の全国戦没者追悼式が東京都千代田区の日本武道館で開かれ、天皇、皇后両陛下や遺族ら約6700人が参列した。天皇陛下はおこ

とばで、大戦について戦後70年の2015年から3年続けて「深い反省」との表現を使い、平和を祈る気持ちを示された。安倍晋三首相は式辞で「戦争の惨禍を繰り返さない」と決意を述べる一方、歴代首相が言及したアジア諸国への加害責任や謝罪には今年も触れず「不戦の誓い」の文言も使わなかった。

式典は正午前に始まり、安倍首相は「私たちが享受する平和と繁栄は、皆さまの尊い犠牲の上に築かれたもの。敬意と感謝の念をささげます」と哀悼の意を表明。「争いの温床となる貧困問題をはじめさまざまな課題に取り組み、世界の平和と繁栄に貢献したい」と語った。安倍首相は5月に憲法9条の改正に言及するなど改憲に意欲を示しているが、式辞で触れることはなかった。

正午過ぎからの1分間の黙とうの後、天皇陛下はおことばを読み上げ、「深い反省とともに、今後、戦争の惨禍が再び繰り返されないことを切に願い、全国民と共に、戦陣に散り戦禍に倒れた人々に対して、心から追悼の意を表し、世界の平和と我が国の一層の発展を祈ります」と語った。6月に陛下の退位を実現する特例法が成立してから、陛下が式典でおことばを述べるのは初めて。退位は18年末や19年3月が検討されており、来年の追悼式にも出席する見通しだ。

厚生労働省によると、参列予定の遺族は6～101歳の5225人。戦没者の子どもが2789人(53.4%)と最多で、兄弟姉妹394人(7.5%)、孫380人(7.3%)と続く。妻は6人と過去最少を更新し、父母の参列は7年前を最後に途絶えている。戦後生まれの人は過去最多の1339人(25.6%)となり、世代交代が進む。

追悼される戦没者は、1937年に始まった日中戦争と、その後の第二次世界大戦で犠牲になった軍人と軍属など合わせて約230万人と、民間人約80万人。【桐野耕一】

終戦72年、平和の誓い新たに 戦没者追悼式

日経新聞 2017/8/15 10:52 (2017/8/15 13:03 更新)

72回目の「終戦の日」を迎えた15日、政府は全国戦没者追悼式を日本武道館(東京・千代田)で開催した。天皇、皇后両陛下や安倍晋三首相ら6167人が参列し、戦没者約310万人の冥福を祈り、平和への誓いを新たにした。天皇陛下はお言葉で、3年連続で「深い反省」に言及された。

式典は午前11時50分すぎに始まり、国歌斉唱の後、安倍首相は「私たちが享受している平和と繁栄は、かけがえのない命をささげられた皆さまの尊い犠牲の上に築かれたものであります」と戦没者への哀悼の意を表明。「戦争の惨禍を、二度と、繰り返してはならない」と誓った。

式辞では安倍首相はアジア諸国への加害責任に5年連続で言及しなかった。昨年12月の真珠湾での演説では言及した「不戦の誓い」も戦没者追悼式では2007年を最後に言及していない。

正午からは参列者が1分間黙とうした後、天皇陛下がお言葉で「過去を顧み、深い反省とともに、今後、戦争の惨禍が再び繰り返されないことを切に願う」と述べられた。

海軍兵だった父を南太平洋のラバウルで亡くした渡辺一さん(83)＝福岡県豊前市＝が、戦没者遺族を代表して、「私たち遺族は、先の大戦から学んだ戦争の悲惨さと平和の尊さを次の世代にしっかりと伝えます」と追悼の辞を述べた。

終戦から72年がたち、遺族は高齢化している。厚生労働省によると、追悼式に参列予定の遺族のうち戦没者の妻は6人(0.1%)。参列者のうち戦後生まれは25.6%と初めて4人に1人を上回った。

参列者の最高齢は、夫が沖縄本島で戦死した芹ヶ野春海さん(101)＝東京都練馬区。最年少は曾祖父が沖縄本島で戦死した宮城翔龍くん(6)＝沖縄県うるま市。遺族の高齢化が進む中、戦没者のひ孫となる11～15歳の男女6人が青少年代表として献花した。

重み増す平和の誓い 戦没者追悼式 加害責任、首相また言及なし

東京新聞 2017年8月15日 夕刊

全国戦没者追悼式で遺族らによる献花が行われた会場。会場前方に遺族らと向き合って並ぶのは献花補助者ら＝15日、東京・日本武道館で(平野皓士朗撮影)



終戦から七十二年を迎えた十五日、政府主催の「全国戦没者追悼式」が日本武道館(東京都千代田区)で開かれ、全国から集まった約五千人の戦没者遺族らが、先の大戦で犠牲になった約三百十万人を悼み、平和への誓いを新たにしました。安倍晋三首相は式辞で「戦争の惨禍を、二度と繰り返してはならない」と述べたものの、歴代首相が盛り込んできたアジアへの「加害と反省」には五年連続で触れなかった。

天皇陛下は皇后さまと共に参列、お言葉で「深い反省」という表現を三年連続で使い、不戦への強い思いを述べられた。退位を実現する退位特例法が六月に成立し、節目の参列となった。

安倍政権が九条改憲を視野に入れ、北朝鮮の弾道ミサイル発射実験も相次ぐなど、平和のあり方が問われる中での

慰霊の日。式典には、衆参両院議長や最高裁判所長官ら各界の代表が参列した。正午の時報に合わせ、全員が一分間の黙とうをささげた。

安倍首相は「戦後、わが国は一貫して戦争を憎み、平和を重んずる国として、ただひたすらに歩んできました」とした上で、「歴史と謙虚に向き合いながら、どのような時代であっても、この不動の方針を貫いてまいります」と述べた。

天皇陛下は「ここに過去を顧み、深い反省とともに、今後、戦争の惨禍が再び繰り返されないことを切に願ひ、全国民と共に、戦陣に散り戦禍に倒れた人々に対して、心から追悼の意を表し、世界の平和とわが国の一層の発展を祈ります」と述べた。

遺族代表の渡辺一(はじめ)さん(83)＝福岡県豊前市＝は追悼の辞で「私たち遺族は、先の大戦から学んだ戦争の悲惨さと平和の尊さを次の世代にしっかりと伝え、二度と戦争をしない日本と国際社会の建設に向かってまい進していく」と誓った。

厚生労働省によると、参列遺族の最年長者は、夫が一九四五年六月に沖縄で戦死した東京都練馬区の芹ヶ野春海(せりがのはるみ)さん(百一)。最年少者は、曾祖父が沖縄で戦死した宮城翔龍(しょうりゅう)君(6つ)だった。

追悼の対象は、戦死した軍人・軍属約二百三十万人と、空襲や広島・長崎の原爆投下、沖縄戦で亡くなった民間人約八十万人の計約三百十万人。

しんぶん赤旗 2017年8月16日(水)

首相 5年連続「反省」無し 終戦記念日 東京で戦没者追悼式

72回目の終戦記念日を迎えた15日、政府主催の全国戦没者追悼式が東京都千代田区の日本武道館で開かれ、天皇、皇后や安倍晋三首相、遺族ら約6400人が参列しました。安倍首相は式辞でアジア諸国への加害の反省に5年連続で言及しませんでした。

安倍首相は「私たちが享受している平和と繁栄は、尊い犠牲の上に築かれた」と述べ、日中戦争と太平洋戦争で犠牲になった日本国民300万人余を追悼。その上で「戦争の惨禍を二度と繰り返してはならない」「歴史と謙虚に向き合い、どのような時代でもこの不動の方針を貫く」と宣言しました。しかし、歴代首相が踏襲してきたアジア諸国への「損害と苦痛」や「深い反省」には一切触れませんでした。

一方、天皇は「お言葉」で、一昨年と昨年に続き「深い反省」に言及。「今後、戦争の惨禍が再び繰り返されないことを切に願う」と述べました。

その後、父がビスマルク諸島ラバウルで戦病死した福岡県豊前市の渡辺一さん(83)が遺族を代表し「先の大戦から学んだ戦争の悲惨さと平和の尊さを次の世代にしっかりと

りと伝え、二度と戦争をしない日本と国際社会の建設に向かってまい進する」と追悼の辞を述べました。

靖国の“神” もう二度と

72回目の終戦記念日を迎えた15日。雨の靖国神社に60人を超える国会議員が高級車で乗りつけ、“英霊”に頭をたれました。

戦時中、天皇制政府が、天皇のためにたたかって死んだ人を“英霊”とまつりあげ、戦争遂行の道具にする施設として利用し続けたのが靖国神社でした。戦後も、侵略戦争を美化する宣伝センターの役割を果たしてきた同神社への参拝は、戦争に対する反省とは無縁です。

この日は、南スーダン国連平和維持活動（PKO）派遣部隊の「日報」隠ぺい疑惑で辞任した稲田朋美元防衛相も参拝。辞任後も衆参両院の閉会中審査に出席しなかった同氏は、取材を求める報道陣も無視しました。

同氏は、「日報」に明記された首都ジュバでの「戦闘」を「憲法9条上の問題となる」として「武力衝突」とごまかし、現地から送られてくる危険情報を握りつぶして自衛隊を内戦状態の南スーダンに送り込み続けました。

稲田氏の姿に、取材で出会った女性の言葉を思い出しました。陸軍軍人だった父親は南方で餓死しています。

「父は、国のために死ぬのが名誉なんていうのは偽りだとわかっていた」

戦争法のもとで戦死者の国家的追悼が現実の問題として浮き上がりつつあります。南スーダンに派遣された陸自第9師団が司令部を置く青森に暮らすこの女性は、自衛官を靖国の“神”にまつり上げることがあってはならないと警鐘を鳴らします。

衆参議長の追悼の辞＝全国戦没者追悼式

全国戦没者追悼式での大島理森衆院議長、伊達忠一参院議長の追悼の辞の要旨は次の通り。

【大島衆院議長】先の大戦が終結して72年が経過した。本年は日本国憲法施行70周年だが、その間、わが国は平和主義を掲げた新憲法のもと、アジアと世界の平和と安定のために貢献してきた。

しかし、今日もなお、テロリズム、核の脅威、地域紛争などの課題が山積している。わが国が国際社会の平和と安定のために果たす役割はますます高まっている。

われわれ国会議員は、改めて先の大戦に思いを致し、日本国憲法の基本理念を心に刻み、戦争の惨禍が二度と繰り返されることのないよう、国民の信託に応え、世界の平和と安定、国民生活の安定と向上のために力を尽くしていく所存だ。

【伊達参院議長】凄惨（せいさん）を極めた先の大戦に思いをはせるとき、終戦から何年たとうとも、深い悲しみが胸に迫る。

先の大戦を知る私たちは、国際社会でも、武力による衝

突がいかにも愚かなことであるかを強く訴えなければならぬ。

今後も、これまで築いてきた平和と繁栄を次代に継承し、希望に満ちた未来を実現するよう全力を傾けることを固く誓う。

結びに、戦没者のみ霊の安らかならんことをお祈り申し上げるとともに、ご遺族皆様方の平安を心より祈念する。

（時事通信 2017/08/15-12:21）

安倍首相式辞＝全国戦没者追悼式

15日の全国戦没者追悼式での安倍晋三首相の式辞全文は以下の通り。

天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、全国戦没者追悼式を、ここに挙行致します。

先の大戦において、300万余の方々、祖国を思い、家族の行く末を案じながら、苛烈を極めた戦場に倒れ、戦禍に遭われ、あるいは戦後、遠い異郷の地で命を落とされました。いま、そのみ霊の御前にあって、み霊安かれと、心より、お祈り申し上げます。

いま、私たちが享受している平和と繁栄は、かけがえのない命をささげられた皆さまの尊い犠牲の上に築かれたものであります。私たちは、そのことを、ひとときも忘れることはありません。改めて、衷心より、敬意と感謝の念をささげます。

戦争の惨禍を二度と繰り返してはならない。

戦後、わが国は一貫して、戦争を憎み、平和を重んずる国として、ただひたすらに歩んでまいりました。そして、世界の平和と繁栄に力を尽くしてきました。私たちは、歴史と謙虚に向き合いながら、どのような時代であっても、この不動の方針を貫いてまいります。

いまだ、争いが絶えることのない世界にあって、わが国は、争いの温床ともなる貧困の問題をはじめ、さまざまな課題に、真摯（しんし）に取り組むことにより、世界の平和と繁栄に貢献してまいります。そして、今を生きる世代、あすを生きる世代のため、希望に満ちた明るい未来を切り開いていく。そのことに全力を尽くしてまいります。

終わりにいま一度、戦没者のみ霊に平安を、ご遺族の皆さまには、ご多幸を、心よりお祈りし、式辞といたします。

（時事通信 2017/08/15-12:14）

天皇陛下のお言葉＝全国戦没者追悼式

本日、「戦没者を追悼し平和を祈念する日」に当たり、全国戦没者追悼式に臨み、さきの大戦において、かけがえのない命を失った数多くの人々とその遺族を思い、深い悲しみを新たにいたします。

終戦以来既に72年、国民のたゆみない努力により、今日の我が国の平和と繁栄が築き上げられましたが、苦難に満ちた往時をしのぶとき、感慨は今なお尽きることがあり

ません。

ここに過去を顧み、深い反省とともに、今後、戦争の惨禍が再び繰り返されないことを切に願い、全国民と共に、戦陣に散り戦禍に倒れた人々に対して、心から追悼の意を表し、世界の平和と我が国の一層の発展を祈ります。(時事通信 2017/08/15-12:38)

終戦の日 平和願うおことば、今年も 天皇陛下

毎日新聞 2017年8月15日 19時29分(最終更新 8月15日 21時54分)

終戦の日の15日に行われた全国戦没者追悼式。天皇陛下は今年も、戦争で亡くなった人々を悼み、平和を願うおことばを述べられた。戦没者の慰霊を「象徴の務め」として取り組む陛下は、追悼式への出席とおことばの読み上げを1989年の即位以来、欠かしたことがない。平和への思いを国民に伝える重要な機会として、来年の追悼式にも臨む見通しだ。

陛下は2009年、高齢と体調を理由に公務の見直しを行い、おことばの機会を減らした。国民体育大会や全国植樹祭などのおことばは取りやめになったが、戦没者追悼式は残された。

今年6月には陛下の退位を実現する特例法が成立。退位の時期は決まっていないが、来年末や19年3月となる場合、来年8月の追悼式に陛下は出席する見通しだ。

追悼式でのおことばは毎年、戦争で亡くなった人々への哀悼や、平和への願いが込められており、根幹は89年から大きく変わらない。一方で陛下は、節目となる年に新たな文言を加え、思いを込めてきた。戦後50年の95年には「歴史を顧み、戦争の惨禍が再び繰り返されぬことを切に願い」との文言を盛り込んだ。戦後70年の15年には「さきの大戦に対する深い反省」との表現が加わり、「深い反省」は今回まで3年連続で使われている。

陛下は、皇后さまとともに国内外で戦没者を慰霊し、遺族らの声に耳を傾けてきた。宮内庁幹部は「追悼式でのおことばの内容は、陛下の行動が伴ったものであるため、重みがあるものとして国民にも受け止められているのではないかと話している。【高島博之】

陛下「深い反省」3年連続 追悼式出席、18年最後の見通し

日経新聞 2017/8/15 21:25

日本武道館で15日開かれた全国戦没者追悼式のお言葉で、天皇陛下は3年連続で「深い反省」に言及された。政府は陛下の退位時期を2018年末か、19年3月末とする方向で調整しており、陛下が天皇として追悼式に出席されるのは来年末が最後となる可能性が高い。

退位を実現する特例法が成立して初めて迎えた追悼式。陛下は例年と同じく、皇后さまとともに臨まれた。



全国戦没者追悼式の会場を退席する天皇、皇后両陛下（15日午後、東京都千代田区）

戦後70年の節目となる15年の追悼式で初めて用いられた「さきの大戦に対する深い反省」との表現を今年も踏襲。

「戦禍に倒れた人々に対して、心から追悼の意を表し、世界の平和と我が国の一層の発展を祈ります」と述べ、平和を願う思いを込められた。

今年6月に成立した退位に関する特例法は施行日を「公布日から3年を超えない範囲で政令で定める」と規定。政府や宮内庁は「18年末退位・19年元日改元」「19年3月末退位・4月1日改元」の2案で皇位継承に向けた準備を進める。

いずれのスケジュールになった場合でも陛下が追悼式に出席するのは来年末が最後になる見通し。今回の追悼式では式壇中央に設けられた「全国戦没者之霊」と記された標柱を見つめる時間が例年より長く、「非常に感慨深げに感じた」（宮内庁幹部）。

陛下は昨年8月8日、退位の意向を強くにじませた「お言葉」をビデオメッセージで表明。高齢となり象徴としての役割が果たせなくなる懸念を示された。

厚生労働省によると、15日の全国戦没者追悼式に参列予定だった遺族5225人のうち、1945年8月15日以降に生まれた「戦後世代」は1339人で全体の25.6%に上り、4年前の13.2%からほぼ倍増。戦没者の父母の参列は2010年を最後に途絶えて、07年には110人が参列した妻も今年はずか6人とどまった。

総務省統計局の推計によると、戦後世代が人口に占める割合は14年に8割を超えた。戦争体験者の高齢化と減少が進み、戦禍の記憶の継承が難しい課題になっている。

「慰安婦」「徴用工」で不満＝要求エスカレートも－韓国大統領

【ソウル時事】韓国の文在寅大統領は15日、日本の植民地からの解放記念日である「光復節」の演説で、慰安婦や徴用工をめぐる問題について「日本の指導者の勇氣ある姿勢が必要だ」と述べた。具体的措置には触れなかったが、両問題での日本側の対応に事実上、不満を表明した発言だ。

日本政府は慰安婦問題に関し「最終的かつ不可逆的な解決」をうたった政府間合意の履行を求め、徴用工問題につ

いても「1965年の日韓請求権・経済協力協定で解決済み」という立場。文大統領が今後、要求をエスカレートさせることも考えられ、「未来志向の関係発展どころか、関係悪化は避けられない」（日韓関係専門家）と懸念する声もある。

「歴史問題が未来志向の韓日関係の発展にとって障害になり続けることは望ましくない」。文大統領は演説で、歴史問題を安全保障や経済など他の分野と切り離して対処していく「ツートラック（2路線）」戦略を取る立場を明確にした。北朝鮮が核・ミサイル開発を加速させる中、「共同で対応していくためには関係強化を図らなくてはならない」（文大統領）という判断があるためだ。

一方で、文大統領は「韓日関係の未来を重視しても、歴史問題にふたをし、やり過ぎることはできない」と述べ、歴史問題も軽視しない考えを強調した。特に「慰安婦や強制徴用など韓日間の歴史問題解決には、人類の普遍的価値と国民的合意に基づいた被害者の名誉回復と補償、真実究明、再発防止の約束という国際社会の原則がある」と指摘。

「わが政府はこの原則を必ず守る」と訴えた。

この日の式典には元慰安婦や戦時徴用された元労働者が招待されていた。一種の「公約」を掲げた形だ。

文政権は慰安婦問題をめぐる合意の交渉過程などを検証する作業部会を設置しており、年内をめどに報告書をまとめる予定。文大統領は報告を受けて、日本側に具体的要求を突き付ける可能性もある。

徴用工問題では、ソウル中心部の駅前などに徴用工を象徴する像が建てられているが、文政権は目立った対応を取っていない。ソウルの日本大使館など公館前に設置する動きもあり、文政権が黙認を続ければ、日本側が態度を硬化させるのは必至だ。（時事通信 2017/08/15-18:47）

徴用工でも日本の対応要求 韓国大統領が演説

共同通信 2017/8/15 12:18



「光復節」の記念式典で演説する韓国の文在寅大統領＝15日、ソウル（聯合＝共同）

【ソウル共同】韓国の文在寅大統領は15日、日本の植民地支配からの解放72年を記念する「光復節」の記念式典で演説した。日本統治下での従軍慰安婦と徴用工の問題に言及し、解決には「国民的合意に基づいた被害者の名誉回復と補償、真実究明と再発防止の約束」が必要だと強調、

「日本の指導者の勇氣ある姿勢」を求めた。慰安婦問題に加え、徴用工問題にも積極的に取り組む姿勢を鮮明にした。

5月に就任した文氏の同式典での演説は初めて。文氏は「強制動員の苦痛は続いている。被害規模はいまだに全てが明らかになっていない」とし、南北共同での被害調査の検討にも触れた。

韓国大統領 慰安婦問題などで日本に取り組み要求 示唆

NHK8月15日 14時34分

韓国のムン・ジェイン（文在寅）大統領は、朝鮮半島が日本の植民地支配から解放された記念日の15日に行った演説で、日本とは未来志向的な関係を目指す一方、慰安婦と徴用工をめぐる問題について、「国民的合意に基づく被害者の名誉回復や補償など、国際社会の原則がある」として、今後、日本政府に何らかの取り組みを求める考えを示唆しました。

韓国政府は毎年8月15日に日本の支配からの解放を記念する式典を開いていますが、ことしは初めて元慰安婦の女性や戦時中に日本での労働を強いられた元徴用工の男性を公式に招待しました。

ムン・ジェイン大統領は15日の式典で行った演説で、日本との関係について「歴史問題が両国関係の未来志向的な発展の足を引っ張り続けるのは望ましくない」と述べ、両国の首脳が相互に相手国を訪問する「シャトル外交」を再開する方針などに理解を求めました。

一方でムン大統領は「未来を重視するからと言って、歴史問題にふたをしてやり過ぎることはできない」と述べたうえで、慰安婦と徴用工をめぐる問題について、「解決には国民的合意に基づく被害者の名誉回復や補償、真実究明と再発防止の約束といった国際社会の原則があり、韓国政府はこの原則を必ず守る」と強調しました。

そして、「日本の指導者たちの勇氣ある姿勢が必要だ」として、この2つの問題で今後、日本政府に何らかの取り組みを求める考えを示唆しました。

韓国大統領 北朝鮮が挑発やめれば対話環境が整う

NHK8月15日 11時59分

韓国のムン・ジェイン（文在寅）大統領は、朝鮮半島が日本の植民地支配から解放された記念日の15日、演説を行い、核・ミサイル開発を加速させる北朝鮮をめぐって「朝鮮半島で再び戦争が起きてはならない」としたうえで、北朝鮮が挑発をやめれば事態打開に向けた対話の環境が整うとする考えを強調しました。

韓国のムン・ジェイン大統領は15日、ソウルで開かれた式典で演説し、核・ミサイル開発を加速させる北朝鮮がアメリカ・トランプ政権を威嚇して、両国の間で激しい非難の応酬となっている現状について、「朝鮮半島をめぐって続く軍事的緊張の高まりが私たちの心を重くする」と述べ

した。
そして、「朝鮮半島で再び戦争が起きてはならない。わが政府はすべてをかけて戦争だけは防ぐ構えであり、北の核問題は必ず平和的に解決すべきだ」という点でアメリカ政府の立場と違いはない」と述べたうえで、北朝鮮が追加的な挑発をやめれば事態打開に向けた対話の環境が整うとする考えを強調しました。

さらにムン大統領は「われわれは北の崩壊を望んでおらず、吸収統一を推し進めることはしない」として、北朝鮮指導部に対し、核兵器の保有が体制の保障につながるという考え方を捨てて、南北がともに繁栄する道を歩むよう求めました。

15日のムン大統領の演説は北朝鮮に対話に応じるよう一段と強く迫る内容でしたが、韓国国内ではそうした融和的な姿勢は功を奏していないという批判も出ています。

「日本は過去の清算を」＝北朝鮮

【ソウル時事】朝鮮中央通信によると、北朝鮮の「朝鮮日本軍性奴隷および強制連行被害者問題対策委員会」は15日、報道官談話を出し、「日本当局は今からでも、自ら（北朝鮮への）敵対政策を転換し、われわれとの過去の清算に臨まなければならない」と訴えた。

報道官は「日本がわが国の『脅威』について大げさに騒ぐなどして、極度の敵対感情や憎悪を助長しているのは、われわれとの過去の清算をどうにかして回避することを目的としている」と主張した。（時事通信 2017/08/15-21:25）

台湾団体が対日抗議＝台北の交流協会前で



15日、日本台湾交流協会の台北事務所前で抗議活動を行う反日団体メンバーら

【台北時事】日本台湾交流協会の台北事務所（大使館に相当）前で終戦記念日の15日、対日抗議活動が行われた。中国との統一を主張する台湾の反日団体「中華統一促進党」が主催し、警察当局の発表によると、約120人が参加した。

同党は「日本は先の大戦について深く反省していない」などと主張し、旧日本軍の従軍慰安婦ら戦争被害者に謝罪するよう求めた。

抗議活動は特に混乱もなく、約1時間で終了した。同事務所前では前日の14日にも、沖縄県・尖閣諸島の領有を

主張する台湾の団体が小規模な抗議活動を行った。（時事通信 2017/08/15-17:32）

中台統一派、台湾で反日デモ 終戦の日

日経新聞 2017/8/15 19:01

【台北＝伊原健作】日本の「終戦の日」に当たる15日、中国と台湾の統一を主張する台湾の政党「中華統一促進党」の関係者が日本の対台湾窓口機関、日本台湾交流協会の台北事務所前で対日抗議デモを行った。約150人が事務所前の路上を占拠。従軍慰安婦問題での日本政府の対応を批判し、「謝罪と賠償を」などと声を上げた。

1年前も台湾の元従軍慰安婦を支援する民間団体が同じ場所で抗議活動を行ったが、人数は50人程度。今回は統一派が主体となり人数が約3倍に増えた。

デモでは台湾当局が使う「国旗」に加え、中国の国旗「五星紅旗」も掲げられた。統一派は反日的な傾向が強く、戦前の台湾に対する日本の貢献を記念する銅像を破壊するなど過激な行動を繰り返している。

「ゴールポスト動かぬ」＝安倍首相、日韓合意直し否定

安倍晋三首相は15日午後、日韓議員連盟幹事長を務める自民党の河村建夫元官房長官と首相官邸で会談した。河村氏によると、首相は慰安婦問題をめぐる日韓合意について「ゴールポストが動くことは絶対にあり得ない」と述べ、見直しを強く否定した。（時事通信 2017/08/15-17:37）

日韓合意「ゴールポスト動かない」…安倍首相

読売新聞 2017年08月15日 21時05分

安倍首相は15日、日韓議員連盟幹事長を務める自民党の河村建夫・元官房長官と首相官邸で会談した。

河村氏によると、首相は慰安婦問題に関する2015年の日韓合意について、「ゴールポストが動くことは絶対にあり得ない」と述べたという。

同問題を巡っては、ソウルのバス運行会社が、慰安婦を象徴する少女像を座席に置いた路線バスの運行を始めており、日本政府内には日韓関係への影響を懸念する声が出ている。菅官房長官は15日の記者会見で、韓国側に適切な対応を取るよう要請したことを明らかにした。